

1. 本研究の経過

I. 2005年度の研究経過

(1) 外邦図デジタルアーカイブの公開

外邦図は東北大学・お茶の水女子大学・東京大学・京都大学など大学のほか、国立国会図書館、岐阜県図書館世界分布図センターに所蔵されているが、その利用についてはかならずしも便利とはいえなかった。その保存もかねて、外邦図を電子化し、「外邦図デジタルアーカイブ」として公開することが東北大学を中心に計画され、研究がすすめてられてきた(宮澤 仁・村山良之・上田 元『外邦図』のデジタル画像化とアーカイブ構築に向けて：東北大学における試行作業から」季刊地理学, 56 [2004]: 163-168 など)。

この計画を、日本学術振興会科学研究費、研究成果公開促進費の「データベース」に申請したところ(代表者: 今泉俊文東北大学教授)、平成 17 年度について採択され、その作業が開始された。また 2005 年 12 月には、この試験公開が下記のアドレスで開始している(東北大学附属図書館/理学部地理学教室、外邦図デジタルアーカイブ)。

<http://www2.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>

平成 17 年度中にすでに 5000 枚のデジタル化を終了し、さらに公開していく予定である。

(2) 国土地理協会の助成

外邦図の研究は、平成 14~16 年度(2002 年 4 月~2005 年 3 月)については、科学研究費、基盤研究(A)「外邦図の基礎的研究：その集成および地域環境資料としての評価をめざして」(代表者：小林 茂[大阪大学])を軸に推進されてきた。この終了後も多くの課題がのこされており、その研究にむけて複数の競争的研究資金に応募したが、残念ながら不採択であった。しかし財団法人、国土地理協会(鶴田定巳会長[当時]、現在は深澤 浩会長)より、「社会教育機関等への助成」をいただき、従来の研究の継続が可能となった(2005 年度の助成額は 200 万円)。なお同協会には、初期の段階でも外邦図研究を助成していただいております(「アジアにおける植民地形成と地図作製事業」代表者：久武哲也 [甲南大学]、2000 年度)、継続して本研究にご理解をいただいていることになる。

助成される団体は「外邦図研究グループ」(代表者：小林 茂)で、その活動の目的と内容は下記の通りである。

- ・ 外邦図目録の作製と刊行
- ・ 外邦図の作製過程と伝存過程の研究
- ・ 外邦図の今後の活用の研究
- ・ 国内・国外での外邦図の利用の便宜の提供
- ・ その他

また国土地理協会は、外邦図研究の長期継続性についてもご理解くださり、あわせて 2005 年度から 5 年間の助成を予定していただいている。

(3) 雑誌『地図情報』の「特集／外邦図」への寄稿

雑誌『地図情報』(財団法人地図情報センター)の 25 巻 3 号(2005 年 11 月刊)で、外邦図の特集号が企画され、本研究参加者で下記のような記事を執筆した。外邦図研究は、これまで読売新聞・サンケイ新聞・日本経済新聞などで報道されているが、地図関係者にひろく知っていただけるということで、積極的に協力させていただいた。この特集号を企画して下さった、同誌編集委員会、なかでも清水靖夫委員長に感謝したい。

中村和郎「外邦図の再発見」(2 頁)

鳴海邦匡「旧日本軍が空中写真によって作製した地図の図化範囲(表紙解説)」(3 頁)

小林 茂「〈外邦図〉へのアプローチ」(4-6 頁)

久武哲也「日本および海外の諸機関における外邦図の所在状況とその系譜関係」(7-11 頁)

村山良之・宮澤 仁・渡辺信孝「外邦図目録の作成からデジタルアーカイブ構築まで」(12-15 頁)

西村三紀郎「岐阜県図書館世界分布図センターの外邦図コレクションとそのレファレンスサービス」(16-19 頁)

長澤良太「旧日本軍撮影の空中写真の特徴」(20-25 頁)

(4) 第7回外邦図研究会

2005 年 6 月に国土地理協会の助成が決定されて以後、とくに重視したのは海外の研究者との連携であった。研究を開始してから、すでに 5 年を経過しているにもかかわらず、外邦図の作製の対象となった地域の研究

者にはまだ直接の接触がなく、また「外邦図デジタルアーカイブ」の公開との関係もあって、外邦図研究に関する国際的理解の形成への努力がまず必要と考えられたのである。これにむけて、第7回外邦図研究会には、海外の研究者に参加していただき、その集成や利用法について討論することを企画した。

海外の研究者として、旧日本軍の秘密測量による地形図を集成して刊行されていた南 榮佑高麗大学教授にまず連絡をとるとともに、大阪大学文学研究科博士後期課程学生の朴 澤龍君に同教授の論文(韓文)の翻訳を依頼した。また7月に片山 剛大阪大学教授(東洋史)が代表者をつとめる科学研究費で台北に出張した際には、中央研究院の施 添福研究員(前台湾師範大学教授)にお会いして、日本における外邦図研究についてお伝えした。施 添福教授は、台湾総督府が作製した台湾の地形図の刊行をおこない、韓国の南教授と同様にまず連絡すべき方と考えられたのである。ただし施教授は体調が悪く、日本で開催する予定の国際的な外邦図研究会には、出席できないとのことであった。このため8~9月に再度台北に出張したときには、台湾総督府作製の地図を中心とした歴史GISの作製を指揮している、中央研究院の范 毅軍博士と会い、外邦図研究会への出席を依頼したところ、快諾を得た。

その後、9月下旬に茨城大学で外邦図に関する発表をおこなうとともに、外邦図研究グループの集まりをもち、次回の外邦図研究会を国際的な研究集会にすることとし、12月23日に立正大学大崎キャンパスでこれを開催することにした。この研究集会には、上記南 榮佑教授、范 毅軍博士およびその助手の廖 汝銘氏(中央研究院計算中心)のほか、日本で研究している外国人研究者として、国立環境研究所の王 勤学総合研究官(中国)、千葉大学環境リモートセンシング研究センターのヨサファット・テトオコ・スリ・スマンティヨ助教授(インドネシア)も来ていただくことにした。南教授、王研究官、テトオコ助教授は日本語が堪能で、范博士については慶応大学GSEC研究所、暦象プロジェクトGIS班の郭俊麟特別研究員に通訳をおこなっていただくことにした。

12月23日(金・祝)の研究会は、立正大学(大崎キャンパス)1152教室で13時より開催された。上記4名の外国人研究者のほか、金窪敏知元国土地理院長、中村和

郎日本国際地理学会会長、石原 潤次期日本地理学会会長、柴山 守京都大学東南アジア研究センター教授など多数の方に集まっていたいただき、盛会であった。

村山良之・宮澤 仁(東北大) : 「東北大学における外邦図デジタルアーカイブの構築と検索システム」



写真1 村山氏(右)および宮澤氏(左)による説明

平成16年度までの準備作業をふまえ、平成17年度の外邦図デジタルアーカイブ作製事業の概要について報告があった。地図の書誌の記載、各種の検索の方法について紹介があり、すでに一部の試験公開が開始されていることも披露された。



写真2 長澤氏による報告

長澤良太(鳥取大)・丹羽雄輔(ESRI ジャパン) : 「昭和10年前後に撮影された陸地測量部の空中写真のオルソ化とその利用可能性」

すでに演者らは米議会図書館所蔵の日本軍撮影の空中写真のオルソ化を開始しているが、これらをさらに広範囲におこなうための試験的な作業について報告した。日本本土における第2次世界大戦以前の空中写真撮影についてふれたあと、現在の空中写真と比較しつつ、その方法等につき紹介された。

③永井信夫・小林政能（財）日本地図センター）：長澤氏らの報告に対するコメント「米国国立公文書館で確認した日本軍撮影空中写真について」



写真3 永井氏による説明

永井氏らは、米国国立公文書館(NARA)で戦中期の米軍撮影空中写真の調査を継続されている。2004年12月の調査に際し、日本軍撮影の空中写真(ニューアイルランド島南端部、1943年12月)を検索された結果を報告された。日本軍撮影空中写真にはJXというコードが付されているが、それだけについての索引は整備されていないことのほか、カメラの焦点距離、推定撮影高度などが報告された。

なおこの発表に対し、長岡正利氏・金窪敏知氏よりコメントがあった。

④Fan, I-chun (范 毅軍) and Liao, Hsiung-Ming (廖 法銘) (Academia Sinica, Taipei, ROC): “Historical GIS in Digital Archive and Research: The Historical GIS of CCTS and THCTS in Academia Sinica.”

中央研究院(台北)の歴史語言研究所とコンピュータ・センターで作製している二つの歴史GISについて

紹介された。一方の「時空間における中国文明」(CCTS: Chinese Civilization in Time and Space)は『中国歴史地図集』のデータをGIS化したもの、他方の「時空間における台湾の歴史と文化」(THCTS: Taiwan History and Culture in Time and Space)は17~19世紀の古地図にくわえ、植民地期の地図や行政区画の変遷、第二次世界大戦後の変化を示す。これらは文字データベース(地方志目録検索資料庫など)、統計データベース(清代糧價與人口資料庫など)、画像データベース(中国・台湾地図データベースなど)とリンクしている。最後にこの歴史GISと国営デジタルアーカイブ計画との関係にもふれられた。



写真4 Fan氏(右)およびLiao氏(左)による説明

南 榮佑 (高麗大、韓国)：「韓国における外邦圖の意義と學術的價值」



写真5 南氏による報告

前半では、韓国における日本の地図作製を秘密測量の時代から追跡するとともに、その時期の地図(軍用秘

図)とのソウルの古書店での出会いからはじまる研究の過程が紹介された。後半では、これら軍事目的で作製された初期の地形図の学術的価値が検討された。精度は低いものの鉄道敷設や橋梁の建設、干拓など日本による各種事業がおこなわれる前の景観を示していることにくわえ、韓国語の訓読による地名が多く掲載されており、地名学的にも意義がある点が強調された。

⑥鳴海邦匡(大阪大・特任研究員)・岡田(谷屋)郷子(大阪大・卒) : Fan 氏等および南氏の報告に対するコメント「『臺灣堡圖』および『舊韓末韓半島地形圖』に未掲載の地形図について」



写真6 岡田氏(左)と鳴海氏(右)による説明

台湾では植民地期に作製された「臺灣堡圖」が、韓国では主として植民地化以前に秘密測量により作製された「略図」が、初期の地形図として大きな意義をもっている。しかし今日台湾および韓国で復刻刊行されているこれらの地図(施 添福教授による『臺灣堡圖』および南 榮佑教授による『舊韓末韓半島地形圖』)は、植民地期に市販されたものが主体となっており、当時軍事秘密とされていたものが含まれていない。これらについて、国土地理院蔵『国外地図目録』に依拠しつつ検討した結果を報告した。『国外地図目録』にあらわれるこの種の地図と考えられるものは、台湾の場合は16図幅にすぎないが、朝鮮半島の場合は咸鏡道や平安道に多数見られることが明らかになった。

この発表には清水靖夫氏よりコメントがあった。

⑦王 勤学(国立環境研究所) : 土地利用変化に伴う中国の水・炭素挙動のシミュレーションー日本の外邦図の応用例としてー

中国各地での炭酸ガスと水のフラックスの計測に関する話のあと、内モンゴル自治区と上海の景観変化研究が紹介された。とくに上海については、外邦図からもデータを得て、1945年以前にさかのぼって検討された。長期変動を考える場合、特定の時期については外邦図以外に空間データがない場合もある点が注目された。



写真7 王氏による説明

⑧ヨサファット テトオコ S.(千葉大環境リモートセンシング研究センター) : 「日本の「外邦図」と衛星画像によるインドネシア地域の都市環境変化のモニタリングー60年間のインドネシアの都市環境の歴史を探るー」



写真8 テトオコ氏による説明

ジャカルタを例に、その長期的景観変動を追跡する研究が紹介された。オランダ東インド会社時代以後、特に第二次世界大戦前の景観については、オランダが作製した地形図(1927年)を日本軍が複製したものを使用し、限られた時期ではあるが、その有効性が示された。

以上のような発表のあと、討論にうつった。今回のような集会は、各方面での研究を知るうえで有用なことが確認された。また「外邦図」という名称があまりに日本中心主義的であることが、海外からの研究者から指摘され、将来的には別の名称が必要なが痛感された。

このあと大崎駅付近で懇親会をおこない、多数の参加を得た。懇親会では、とくに今回の「外邦図デジタルアーカイブ」の公開に関する海外の研究者の見解を聞くことができた。各地域で、地図の取り扱いがちがうが、今後もこの学術的意義の理解をひろく求めていく必要があることを話し合った。

II. 2005年度における研究の概要

2005年度に実施された研究の概要は以下の通りである。

- ①2005年6月25日(於：岐阜県図書館世界分布図センター)
岐阜県図書館世界分布図センターと岐阜県古地図文化研究会の講演会で、小林 茂が「アジア太平洋地域の近代と日本軍の地図作製：数奇な運命をたどった外邦図の調査から」と題する講演をおこなった(概要は『分布図情報』[岐阜県図書館世界分布図センター・情報工房], 37: 6 [2006年3月]に掲載)。
- ②2005年9月18日、日本地理学会2005年度秋季学術大会(茨城大学)での発表と打ち合わせ集会
小林 茂・渡辺理絵「日本の旧植民地における土地調査事業と地図作製」(日本地理学会発表要旨集, 68: 49)。
村山良之・宮澤 仁「外邦図デジタルアーカイブの構築と検索システム」日本地理学会地理情報科学研究グループ発表会。

- ③2005年11月30日、『地図情報』(財団法人地図情報センター)の25巻3号(特集/外邦図)の刊行。
- ④2005年12月23日、第7回外邦図研究会(於：立正大学大崎キャンパス、1152教室)
- ⑤2005年12月24日、資料提供について大阪大学附属図書館の感謝状の贈呈ならびに補足的なインタビュー調査(甲府市、古屋俊助氏宅)、小林 茂
- ⑥2006年2月12日、国際シンポジウム「韓国における伝統的地理思考と近代地理学の成立」発表(国際日本文化研究センター)
岡田郷子・渡辺理絵・小林 茂「近代朝鮮半島における日本の地図作製：秘密測量と土地調査事業」
- ⑦2006年3月29日、日本軍人による日清戦争期以前の朝鮮半島の測量によって作製された地図の調査(東京：国立公文書館)、小林 茂・岡田郷子
- ⑧その他の関連活動
台北、国立中央図書館台湾分館・国家図書館・中央研究院・国史館などでの資料調査(片山 剛大阪大学教授が代表をつとめる科学研究費、基盤研究[A]「1930年代広東省土地調査冊の整理・分析及活用」による)
2005年7月11日～15日、小林 茂
2005年8月22日～9月3日、小林 茂・渡辺理絵
2006年3月5日～12日、小林 茂
- ⑨その他の印刷物
小林 茂(2005. 12)「外邦図の目録および一覧図について」待兼山論叢(日本学編)(大阪大学文学研究科), 39: 1-29.
小林 茂(2006. 3)「近代日本の地図作製と東アジア：外邦図研究の展望」E-journal GEO(日本地理学会), 1(1): 52-66.

(文責：小林 茂・鳴海邦匡)